

小学生の自尊感情に関する一考察

—大垣市立南小学校の児童の実態から—

A case study on how elementary school children gain self-esteem

—Based on the behavioral patterns of the children of Minami elementary school—

西田 依子 林 幸克

NISHIDA Yoriko HAYASHI Yukiyoshi

I 研究の目的

日本の子ども達の中には、自分に自信がもてない子どもが多いという指摘が多い。たとえば、「第7回世界青少年意識調査報告書」(2004年1月)や「低年齢少年の生活と意識に関する調査」(2007年2月)、さらに、児童精神科医の古荘純一が行ったQOL尺度調査の結果等ⁱⁱⁱからも、日本の子どもの自尊感情の低下が指摘されている。また、そのことが不登校や問題行動の増加など、学校における今日的課題の要因になっているとの見解も多い。例えば、池田^{iv}は、1988年に箕面市で実施した調査結果から、「自尊感情が高い者は、自分に対する誇りや自信をもっており、社会的な適応も高い。まわりの環境に対して主体的であろうとする気持ちも強く、まわりの環境や運命によって自分が左右されるのではなく、自分の力で環境を変えていこうとしたり、運命をきりひらいていこうとする態度をもっていることが明らかとなった。また、努力や計画的行動を積極的に意味づけるような態度も見られた。」と述べている。また、井上^vは、自尊感情のレベルと失敗課題への対処の関連について検討した報告の中で、自他ともに自尊感情が高い群では失敗課題の選択数が多く、失敗課題への構えも積極的で、失敗を成功に変えようとする構えが顕著であり、低い群では成功課題を反復しやすく、たとえ失敗課題を選択してもそれを成功に変えようとする姿勢は見受けられなかったことを明らかにした。

自分を価値あるものと誇れる気持ち、すなわち自尊感情は、自分の力で主体的に生きていく力、失敗を成功に変えようとする積極性につながるものである。自尊感情を育成することは、現在、問題となっているいじめ、不登校、問題行動などを解決するだけでなく、生きる力を育む重要な要素であると言える。

子どもの自尊感情の形成にとって、学級の果たす役割は非常に大きい。クーパー・スミスとフェルドマン^{vi}は、学級集団において好ましい自己概念を育てることが高い自尊感情を形成させることになる、と理論化した。また、ガーゲン^{vii}は、学童期に達した子どもたちの自尊感情の形成について、「学童期に達した子どもは、家族・近隣とともに新たに学級社会に適応することによって彼らの自己概念・自尊感情を形成することになる。担任教師や級友との相互作用を通して、子どもたちは学業達成・社会的コンピテンス・性役割行動・道徳性さらには役割取得能力などを学習する。これらの十分な学習は子どもの建設的な行動を発現させる自尊感情を形成させることになる」としている。以上のことから、自尊感情に着目した学級経営をしていくことが、子どもたちの確かな自尊感情を育むことにつながると考える。

そこで、本研究では、自尊感情を育む学級経営のあり方について考えるため、小学生の自尊感情の現状について質問紙調査から検証・考察することを目的とする。

II 大垣市立南小学校（以下、南小学校と略記）の概略

本研究の調査対象の小学生が所属する南小学校は、大垣駅から1.5kmの場所にあり、市域のほぼ中心部に位置している。古くからの家並みの中で代々、商業や自営業を営む家々、通りから入り込んだ静寂な住宅街、校外の新興住宅地から成り立っている。

保護者を始めとする地域住民の多くは、学校教育に関心が高く、交通指導や挨拶指導などにも大変協力的である。他方、共働き世帯は全体の約6割であり、多くの母親が仕事に携わり、子どもとのふれあいがもちにくい家庭も増えてきている。

児童数は2011年度359人である。男女比は学年によって、少し差はあるものの、ほぼ半数ずつである。通常学級12学級、特別支援学級5学級、合計17学級から成っている。

学校経営の重点の中には、「よさや違いを認め合い、かかわりを深める指導」という内容がある。子どもたちの自尊感情を高めていくため、仲間とのかかわりの中で、一人一人の存在を大切にする学級づくりを学校全体で進めている。

III 調査方法

1 調査対象被験者

2010年11月中旬から下旬にかけて、南小学校の通常学級の全児童に対して質問紙調査を行った。調査は各学級担任が朝の会や帰りの会、学級活動の時間を使い行った。低学年児童は、担任が質問項目を読み上げ、必要に応じて補足説明を行いながら実施した。

1年生53人、2年生54人、3年生58人、4年生64人、5年生63人、6年生67人、合計359人から回答を得た（回収率は100.0%）。

2 調査内容

調査票に採用した「自尊感情テスト」は、福岡県教育センターⁱⁱⁱが2004年に作成した「自尊感情5領域テスト」から抜粋した。5領域とは、ポープの定義である「社会的領域・学業的領域・家族・身体イメージ・全体的自尊心」であるが、「身体的イメージ」は個々の子どものケースによっては必ずしもあてはまらないということもあるということから、身体イメージを除く4領域とした。

この4領域と、池田^{ix} (1986) の構成概念である「包み込まれ感覚・社交性感覚・勤勉性感覚・自己受容感覚」との関連性を考えると、表1のようにまとめることができる。そこで、本研究では、自尊感情の構成概念を、池田の「包み込まれ感覚」「社交性感覚」「勤勉性感覚」「自己受容感覚」としてとらえ、分析を行った。

表1 自尊感情構成概念の関連性

| | ポープ | 池田 |
|------|---------|----------|
| 居場所 | ③家族 | ①包みこまれ感覚 |
| 社会性 | ①社会的領域 | ②社交性感覚 |
| 自己実現 | ②学業的領域 | ③勤勉性感覚 |
| 自己理解 | ④身体イメージ | ④自己受容感覚 |
| | ⑤全体的自尊心 | |

虚偽事項5項目を加えた以下の29の質問項目に対して、「そう思う・少しそう思う・少しそう思わない・そう思わない」の4件法で回答を求めた。

表2 自尊感情テスト 質問項目

| | |
|----|----------------------------------|
| 1 | わたしは、他の人が、自分のことをどう思っているか 気になります。 |
| 2 | わたしは、本を読むのが好きです。 |
| 3 | わたしは、お家の人に大切にされています。 |
| 4 | わたしは、自分のことが好きです。 |
| 5 | わたしは、宿題をわすれないでします。 |
| 6 | わたしの話すことを、他の人はおもしろくないと思っています。 |
| 7 | 自分のせいせきは、たいへんよいと思います。 |
| 8 | わたしは、お家の人と いっしょにすることが好きです。 |
| 9 | わたしは、得意なことやじまんでできることがあります。 |
| 10 | わたしは、うそをつくことがあります。 |
| 11 | 友達は、わたしの意見をしっかりと聞いてくれます。 |
| 12 | わたしは、先生の話をよくわかりたいと思います。 |
| 13 | お家の方は、わたしの話をよく聞いてくれます。 |
| 14 | 誰か他の人に生まれかわりたいです。 |
| 15 | わたしは家族が自分のしたいことをさせてくれない時に怒ります。 |
| 16 | わたしにはたくさん友達がいます。 |
| 17 | わたしは、勉強があまりとくいではありません。 |
| 18 | わたしは、お家の人にめいわくをかけていると思います。 |
| 19 | わたしは、友達の言いなりになってしまうことがあります。 |
| 20 | わたしは、注意されなくても、後かたづけをします。 |
| 21 | 自分からすすんで、友達をつくることができます。 |
| 22 | わたしは、勉強をするときに、時間がかかります。 |
| 23 | お家の方は、わたしのことをほめてくれます。 |
| 24 | わたしは、自分のことを大切な人だと思います。 |
| 25 | 試合に勝とうとして、ルールを守らないことがあります。 |
| 26 | 友達をつくるのが、もっとじょうずだったらいいと思います。 |
| 27 | 勉強は、楽しいと思います。 |
| 28 | わたしは、家でわがままです。 |
| 29 | わたしは、自分のじまんでできるところが、一つもありません。 |

IV 調査結果

調査結果を、「包み込まれ感覚」「社交性感覚」「勤勉性感覚」「自己受容感覚」の4観点に分類し、学校全体、学年別、男女別に分析した。結果は以下の通りである。

1 学校全体

①包み込まれ感覚

表3 包み込まれ感覚 (学校全体)

(%)

| 質問項目 | とても そうだ | 少し そうだ | 合計 |
|----------------------|------------|-----------|------|
| 私はお家の人に大切にされています。 | 71.5 | 21.4 | 92.9 |
| 私はお家の人と一緒にいることが好きです。 | 65.0 | 23.5 | 88.5 |
| お家の方は私の話をよく聞いてくれます。 | 51.7 | 29.0 | 80.7 |
| お家の方は、私のことをほめてくれます。 | 48.3 | 33.0 | 81.3 |
| 私はお家の人に迷惑をかけています。 | 21.1 | 40.6 | 61.7 |
| 私は、家でわがままです。 | 25.9 | 24.7 | 50.6 |

南小学校児童の「包み込まれ感覚」は全体的に高く、「お家の人に大切にされている」、「お家の人と一緒にいることが好きだ」という質問項目に対し、「とてもそうだ」とする児童は全体の70%を超え、「少しそうだ」まで加えると全体の90%を超える。また、家族が「話をよく聞いてくれる」「ほめてくれる」という質問に対しても、全体の約半数の児童が「とてもそうだ」と回答し、「少しそうだ」まで加えると80%の児童が肯定的な回答をしている。「お家の人と一緒にいることが好きだ」とする質問項目に対しては、65%もの児童が「とてもそうだ」と回答し、「少しそうだ」まで加えると88.5%である。一方、「家族に迷惑をかけている」「家でわがままである」と回答した児童は半数近くにとどまっている。

この結果から、多くの児童は保護者から受容されているという感覚を感じていることがわかる。だからこそ、自分が家族に迷惑をかけている、家でわがままであることを自覚し、申し訳ないと感じている児童が多くいるのではないだろうか。

② 社交性感覚

表4 社交性感覚 (学校全体) (%)

| 質問項目 | とても そうだ | 少し そうだ | 合計 |
|-----------------------------|------------|-----------|------|
| 友達は私の意見をしっかりと聞いてくれます。 | 39.3 | 42.5 | 81.8 |
| 私には友達がたくさんいます。 | 64.0 | 26.5 | 90.5 |
| 自分からすすんで友達をつくることができます。 | 53.4 | 27.5 | 80.9 |
| 私は他の人が自分のことをどう思っているか気になります。 | 31.9 | 30.3 | 62.2 |
| 友達をつくるのがもっと上手だったらいいと思います。 | 46.5 | 20.4 | 66.9 |
| 私の話すことを、他の人は面白くないと思っています。 | 10.4 | 28.6 | 39.0 |

「友達は私の話をしっかりと聞いてくれる」という質問項目に対しては、80%以上の児童が、「とても・少しそうだ」と肯定的な回答である。また、「友達がたくさんいる」「自分から進んで友達をつくるができる」という質問項目に対しても、80%以上の児童が「とても・少しそうだ」と回答している。一方、「私は他の人が自分のことをどう思っているか気になる」「友達を作るのがもと上手だったらいい」とする児童が60%以上いる。

この結果から、南小学校の児童は友達と良好な関係を築けてはいるが、その関係に自信がなく、仲間の目を意識して、ありのままの自分を出し切れていない姿が見られる。

③ 勤勉性感覚

表5 勤勉性感覚 (学校全体) (%)

| 質問項目 | とても そうだ | 少し そうだ | 合計 |
|----------------------|------------|-----------|------|
| 私は本を読むのが好きです。 | 44.7 | 31.1 | 75.8 |
| 私は先生の話をよくわかりたいと思います。 | 64.9 | 30.4 | 95.3 |
| 自分の成績は大変良いと思います。 | 12.8 | 37.9 | 50.7 |
| 私は勉強があまり得意ではありません。 | 22.3 | 23.8 | 46.1 |
| 勉強は楽しいと思います。 | 33.6 | 26.1 | 59.7 |
| 私は勉強する時に時間がかかります。 | 30.1 | 29.9 | 60.0 |

「先生の話をよくわかりたい」とする児童は全体の90%を超える。また、「本を読むことが好きだ」という児童も75%を超えている。一方、「勉強は楽しい」とする児童は約60%、「自分の成績はとても良い」「勉強はあまり得意ではない」とする児童が約半数近くとなっている。

この結果から、南小学校の児童は学習に対する意欲は高いものの、自分の学業成績に対して満足しておらず、学習に対して苦手意識をもっている児童も半数近くいることがわかる。

④自己受容感覚

表6 自己受容感覚（学校全体） (％)

| 質問項目 | とても そうだ | 少し そうだ | 合計 |
|--------------------------|------------|-----------|------|
| 私は自分のことが好きです。 | 24.8 | 34.1 | 58.9 |
| 私は得意なことや自慢できることがあります。 | 51.5 | 26.2 | 77.7 |
| 私は自分のことを大切な人だと思えます。 | 43.3 | 30.7 | 74.0 |
| 誰か他の人に生まれ変わりたいです。 | 21.8 | 15.6 | 37.4 |
| 私は友達の言いなりになってしまうことがあります。 | 17.4 | 28.0 | 45.4 |
| 私は自慢できるところが一つもありません。 | 12.6 | 8.4 | 21.0 |

「私は自分のことを大切な人だと思う」「私は得意なことや自慢できることがある」という質問項目に対しては、「とても・少しそうだ」と回答した児童が70%を超える一方、「友達のいいなりになってしまう」とことがあるという児童も半数近くいる。また、「自分のことが好きだ」という項目に対しては、「とても・少しそうだ」とする児童は、全体の60%程度である。

この結果から、南小学校児童は得意なことや自慢できること、すなわち自分のよさをしっかりと自覚できていることがわかる。また、自分の存在はとても大切であるということも自覚している児童が多いことがわかる。このように、自分の存在の大切さを理解してはいるものの、実際の自分とのギャップがあり自分のことが好きだと言い切れない、自分の思いをもってはいるものの仲間との関係が崩れるのを恐れ自分の思いを友達に伝えられない児童も数多くいることが明らかとなった。

2 学年別

表中の数字は、「とてもそうだ・少しそうだ」を合計した値である。

①包み込まれ感覚

表7 包み込まれ感覚（学年別） (％)

| 質問項目 | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | 5年 | 6年 |
|-------------------------|------|------|------|------|------|------|
| 私はお家の人に、大切にされています。 | 98.1 | 98.1 | 86.0 | 96.9 | 88.9 | 91.0 |
| 私は、お家の人と、一緒にいることが、好きです。 | 92.5 | 94.3 | 87.9 | 92.2 | 77.8 | 88.1 |
| お家の方は、私の話を、よく聞いてくれます。 | 73.6 | 88.7 | 81.0 | 81.3 | 74.6 | 85.1 |
| 私は、お家の人に、迷惑をかけていると思います。 | 50.9 | 65.4 | 47.4 | 57.8 | 77.8 | 68.2 |
| お家の方は、私のことを、褒めてくれます。 | 81.1 | 81.5 | 87.9 | 87.5 | 69.8 | 80.3 |
| 私は、家でわがままです。 | 60.4 | 57.4 | 51.7 | 46.9 | 41.3 | 48.4 |

学年別に見ても、南小学校児童の「包み込まれ感覚」は高く、学年間の大きな差は見られないが、

低学年は「お家の人に大切にされている」「家族と一緒にいることが好き」という項目で特に肯定的な回答が多い。

一方、5年生では、「お家の人と一緒にいることが好き」「お家の人があほめてくれる」と感じている児童が大きく減っている。これは、思春期に入り、自我が芽生え、家族を疎ましく感じるようになっていたためであると考えられる。同時に、「お家の人に迷惑をかけている」と感じる児童が増え、家族との関係に悩む5年生の姿が見えてくる。

② 社交性感覚

表8 社交性感覚 (学年別) (%)

| 質問項目 | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | 5年 | 6年 |
|-----------------------------|-------|------|------|------|------|------|
| 私は、他の人が自分の事をどう思っているか気になります。 | 28.8 | 50.9 | 74.1 | 68.7 | 69.8 | 73.1 |
| 私の話すことを、他の人は面白くないと思っています。 | 26.4 | 39.6 | 44.8 | 46.9 | 38.7 | 35.8 |
| 友達は、私の意見を、しっかりと聞いてくれます。 | 84.9 | 81.1 | 65.5 | 85.9 | 74.6 | 97.0 |
| 私には、友達がたくさんいます。 | 100.0 | 88.7 | 87.9 | 95.3 | 82.5 | 89.6 |
| 自分から進んで、友達をつくることができます。 | 92.5 | 81.5 | 86.0 | 84.1 | 69.8 | 74.2 |
| 友達をつくるのが、もっと上手だったらいいと思います。 | 77.4 | 75.5 | 53.4 | 70.3 | 66.7 | 60.6 |

「私は他の人が自分の事をどう思っているか気になります」という質問項目では、特に3年生以降で気にする児童が多くなる傾向がある。また、「友達に意見をしっかりと聞いてくれる」という質問項目では、3年生で明らかに低下する傾向がある。これは、中学年で客観的に自己を見つめることができるようになるものの、まだ自己中心性が残っており、友達との関係をうまく築くことができない児童の姿と結びつくものと考えられる。

また、「自分から進んで友達を作ることができる」という項目に対しては、5年生以降でそれが難しくなる傾向にある。これは、高学年になると、小グループができるなど友達関係が固定化し、自分から声をかけにくい状況になるためであると考えられる。

これらの結果から、特に中学年以降で、仲間の目を意識するようになり、自分から積極的に仲間にかかわっていくことをためらう傾向が出てくることがわかる。

③ 勤勉性感覚

表9 勤勉性感覚 (学年別) (%)

| 質問項目 | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | 5年 | 6年 |
|-----------------------|------|------|------|------|------|------|
| 私は、本を読むのが好きです。 | 94.2 | 88.5 | 77.6 | 70.3 | 60.3 | 70.1 |
| 自分の成績は、大変良いと思います。 | 66.0 | 77.8 | 62.1 | 42.2 | 36.5 | 28.4 |
| 私は、先生の話、よく分かりたいと思います。 | 98.1 | 92.6 | 96.6 | 98.4 | 92.1 | 94.0 |
| 私は、勉強が、あまり得意ではありません。 | 45.3 | 30.2 | 31.0 | 54.7 | 57.1 | 53.7 |
| 私は、勉強をするときに、時間がかかります。 | 45.3 | 66.7 | 58.6 | 62.5 | 63.5 | 62.1 |
| 勉強は、楽しいと思います。 | 84.9 | 77.4 | 63.8 | 56.3 | 42.9 | 40.9 |

勤勉性感覚は、学年が上がるに伴って低下する。特に学業にかかわる項目での低下が著しい。「自

分の成績は大変よい」「勉強は得意である」「勉強は楽しい」という質問項目は学年が上がるに伴って、明らかに否定的な回答が多くなっている。特に、4年生以降で否定的な回答が急激に増加していることがわかる。

4年生以降は具体的操作を超えた抽象的な思考に学習内容が変化していくため、学習が理解できなくなる子が多くなっていく。ベネッセ教育研究開発センター³が2000年に行った調査でも、4年生の約12%もの児童が、「算数の授業はわからないことが多い、ほとんどわからない」と答えている。

子ども達にとって、学業への関心はとても高く、授業がわからないと感じること、テストで低学年の時のように自分の思うような結果が残せないことなどで、学習に対して苦手意識をもち、学習への意欲をなくしていく児童が増えてくると考えられる。

④自己受容感覚

表10 自己受容感覚（学年別）

(%)

| 質問項目 | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | 5年 | 6年 |
|----------------------------|------|------|------|------|------|------|
| 私は、自分のことが好きです。 | 64.7 | 77.4 | 64.9 | 62.5 | 36.5 | 52.2 |
| 私は、得意なことや、自慢できることがあります。 | 81.1 | 72.2 | 79.3 | 76.6 | 74.6 | 82.1 |
| 誰か他の人に、生まれ変わりたいです。 | 45.3 | 37.7 | 10.3 | 48.4 | 52.4 | 29.9 |
| 私は、友達の言いなりに なってしまうことがあります。 | 21.2 | 44.4 | 53.4 | 53.1 | 50.8 | 45.5 |
| 私は、自分のことを、大切な人だと思います。 | 96.2 | 88.9 | 74.1 | 71.9 | 47.6 | 71.2 |
| 私は、自分の自慢できるところが、一つもありません。 | 24.5 | 24.1 | 20.7 | 17.2 | 25.4 | 15.2 |

自己受容感覚は、学年が上がるに伴って低下する傾向がある。

「私は自分のことが好きです」「私は自分のことが大切な人だと思います」という質問項目に関しては、学年進行に伴い、否定的な回答が多くなっていく傾向がある。また、「友達のいいなりになってしまうことがある」という質問項目に関しても、3年生以降では、半数以上の児童が「そうだ・少しそうだ」とする回答している。ここから、学年が上がるにつれて自分の存在に自信がもてなくなってしまう傾向が見える。特に中年以降では、仲間を強く意識し自分の思いを素直に表出できない傾向が強くなる。

これは、中学年以降では、自己中心性から脱却し、客観的に自己見つめができるようになることと関係していると考えられる。澤田⁴らは、児童後期（9～11歳ごろ）の発達について、自分の価値についての全体的な評価を行う過程もすすみ、その際に、一部の特定の領域（たとえば学業成績、仲間からの人気）での低い自己認識がその子どもの全体的な自己評価に結びついてしまい、「自分はまったくダメな人間だ」というように自己を記述する子どもが出てくるのが問題になるとしている。つまり、児童後期は、他者との能力比較から自己を評価する能力が育ち、自分の価値についての全体的な評価を行うことができるようになるという。一部の領域での低い自己認識が全体的な評価に結びつくことも多く、そのため、中学年以降の子どもの自尊感情は低下してくることが考えられる。

3 男女別

表中の数字は、「とてもそうだ・少しそうだ」を合計した値である。

①包み込まれ感覚

表11 包み込まれ感覚 (男女別) (%)

| 質問項目 | 性別 | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | 5年 | 6年 |
|-------------------------|----|-------|-------|------|------|------|------|
| 私はお家の人に、大切にされています。 | 男子 | 95.2 | 96.8 | 79.3 | 96.8 | 82.8 | 92.1 |
| | 女子 | 100.0 | 100.0 | 92.9 | 97.0 | 94.1 | 89.7 |
| 私は、お家の人と、一緒にいることが、好きです。 | 男子 | 81.8 | 93.8 | 83.3 | 87.1 | 69.0 | 89.5 |
| | 女子 | 100.0 | 95.2 | 92.9 | 97.0 | 85.3 | 86.2 |
| お家の方は、私の話を、よく聞いてくれます。 | 男子 | 72.7 | 84.4 | 80.0 | 77.4 | 75.9 | 84.2 |
| | 女子 | 74.2 | 95.2 | 82.1 | 84.8 | 73.5 | 86.2 |
| 私は、お家の人に、迷惑をかけていると思います。 | 男子 | 63.6 | 67.7 | 55.2 | 64.5 | 79.3 | 56.8 |
| | 女子 | 41.9 | 61.9 | 39.3 | 51.5 | 76.5 | 82.8 |
| お家の方は、私のことを、褒めてくれます。 | 男子 | 72.7 | 72.7 | 86.7 | 83.9 | 62.1 | 83.8 |
| | 女子 | 87.1 | 95.2 | 89.3 | 90.9 | 76.5 | 75.9 |
| 私は、家でわがままです。 | 男子 | 63.6 | 57.6 | 43.3 | 41.9 | 37.9 | 47.2 |
| | 女子 | 58.1 | 57.1 | 60.7 | 51.5 | 44.1 | 50.0 |

包み込まれ感覚は、ほとんどの質問項目で、女子の方が肯定的な回答をしている。一般的に、男子に比べ女子は精神発達が早いため、親から指示されるのではなく、自分で考えて行動したり、決められたことを自分からすすんで行ったりできるため、保護者に叱られる機会が少ないためではないかと予想される。

しかし、「わたしは家でわがままである」という質問項目では、中学年以降、女子がそのように感じている。これは、中学年以降では自分を客観視する力が女子に育ってくるためであると考えられる。

②社交性感覚

表12 社交性感覚 (男女別) (%)

| 質問項目 | 性別 | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | 5年 | 6年 |
|-----------------------------|----|-------|------|------|------|------|-------|
| 私は、他の人が自分の事をどう思っているか気になります。 | 男子 | 38.1 | 45.5 | 56.7 | 61.3 | 55.2 | 63.2 |
| | 女子 | 22.6 | 60.0 | 92.9 | 75.8 | 82.4 | 86.2 |
| 私の話すことを、他の人は面白くないと思っています。 | 男子 | 31.8 | 37.5 | 40.0 | 45.2 | 42.9 | 36.8 |
| | 女子 | 22.6 | 42.9 | 50.0 | 48.5 | 35.3 | 34.5 |
| 友達は、私の意見を、しっかりと聞いてくれます。 | 男子 | 77.3 | 81.3 | 60.0 | 87.1 | 62.1 | 100.0 |
| | 女子 | 90.3 | 81.0 | 71.4 | 84.8 | 85.3 | 93.1 |
| 私には、友達がたくさんいます。 | 男子 | 100.0 | 87.5 | 90.0 | 96.8 | 75.9 | 92.1 |
| | 女子 | 100.0 | 90.5 | 85.7 | 96.9 | 88.2 | 86.2 |
| 自分から進んで、友達をつくることができます。 | 男子 | 81.8 | 75.8 | 86.7 | 83.9 | 69.0 | 73.0 |
| | 女子 | 100.0 | 90.5 | 85.2 | 84.4 | 70.6 | 75.9 |
| 友達をつくるのが、もっと上手だったらいいと思います。 | 男子 | 68.2 | 75.0 | 43.3 | 67.7 | 55.2 | 56.8 |
| | 女子 | 83.9 | 76.2 | 64.3 | 72.7 | 76.5 | 65.5 |

社交性感覚は、男女間であまり差がない。しかし、「他の人が自分のことをどう思っているか気になる」という質問項目には、2年生以降の女子がそのように強く感じている。また、「友達をつくるのがもっと上手だったらいい」という質問項目には、すべての学年で女子の方がそのように感じていることがわかる。

これらの結果から、男子に比べ、女子は友達のことを強く意識していることがわかる。そのため、友達との関係に自信をもつことができず、もっと上手に友達との関係を築きたいと願っていると考えられる。

③ 勤勉性感覚

表13 勤勉性感覚（男女別） (％)

| 質問項目 | 性別 | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | 5年 | 6年 |
|-----------------------|----|-------|------|------|-------|-------|------|
| 私は、本を読むのが好きです。 | 男子 | 90.5 | 83.9 | 73.3 | 51.6 | 44.8 | 60.5 |
| | 女子 | 96.8 | 95.2 | 82.1 | 87.9 | 73.5 | 82.8 |
| 自分の成績は、大変良いと思います。 | 男子 | 54.5 | 66.7 | 46.7 | 29.0 | 37.9 | 31.6 |
| | 女子 | 74.2 | 95.2 | 78.6 | 54.5 | 35.3 | 24.1 |
| 私は、先生の話、よく分かりたいと思います。 | 男子 | 100.0 | 90.9 | 96.7 | 96.8 | 82.8 | 94.7 |
| | 女子 | 96.8 | 95.2 | 96.4 | 100.0 | 100.0 | 93.1 |
| 私は、勉強が、あまり得意ではありません。 | 男子 | 72.7 | 34.4 | 40.0 | 45.2 | 51.7 | 47.4 |
| | 女子 | 25.8 | 23.8 | 21.4 | 63.6 | 61.8 | 62.1 |
| 私は、勉強をするときに、時間がかかります。 | 男子 | 59.1 | 63.6 | 66.7 | 54.8 | 55.2 | 59.5 |
| | 女子 | 35.5 | 71.4 | 50.0 | 69.7 | 70.6 | 65.5 |
| 勉強は、楽しいと思います。 | 男子 | 68.2 | 75.0 | 50.0 | 48.4 | 44.8 | 43.2 |
| | 女子 | 96.8 | 81.0 | 78.6 | 63.6 | 41.2 | 37.9 |

「自分の成績は大変良い」という質問項目には、低・中学年では女子が、高学年では男子がそう感じていることがわかる。「勉強があまり得意ではない」「勉強は楽しい」という項目では、1年生から3年生までは女子が、4年生以上では男子が肯定的な回答をしている。

これらの結果から、低学年では男子が学習に対する苦手意識をもっているが、中学年以降では女子にその傾向が強くなっていくことがわかる。低学年、特に1年生の男子はなかなか学習に集中して取り組むことができず保護者、教師から叱られるなどして自分に自信がもてなくなってしまう状況にあることが予想される。また、女子は宿題にしっかりと取り組むなど、指示されたことにはしっかりと取り組むことができるが、中学年以降、学習内容が難しくなり、さらに自分を客観視する力が育ってくるため、学習への苦手意識が強くなり、学習意欲が低下してくることが予想される。

④ 自己受容感覚

表14 自己受容感覚（男女別） (％)

| 質問項目 | 性別 | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | 5年 | 6年 |
|----------------------------|----|-------|------|------|------|------|------|
| 私は、自分のことが好きです。 | 男子 | 60.0 | 68.8 | 62.1 | 58.1 | 34.5 | 68.4 |
| | 女子 | 67.7 | 90.5 | 67.9 | 66.7 | 38.2 | 31.0 |
| 私は、得意なことや、自慢できることがあります。 | 男子 | 86.4 | 66.7 | 70.0 | 71.0 | 75.9 | 86.8 |
| | 女子 | 77.4 | 81.0 | 89.3 | 81.8 | 73.5 | 75.9 |
| 誰か他の人に、生まれ変わりたいです。 | 男子 | 36.4 | 37.5 | 3.3 | 41.9 | 58.6 | 28.9 |
| | 女子 | 51.6 | 38.1 | 17.9 | 54.5 | 47.1 | 31.0 |
| 私は、友達の言いなりに なってしまうことがあります。 | 男子 | 28.6 | 51.5 | 60.0 | 45.2 | 55.2 | 43.2 |
| | 女子 | 16.1 | 33.3 | 46.4 | 60.6 | 47.1 | 48.3 |
| 私は、自分のことを、大切な人だと思えます。 | 男子 | 90.9 | 87.9 | 73.3 | 77.4 | 44.8 | 86.5 |
| | 女子 | 100.0 | 90.5 | 75.0 | 66.7 | 50.0 | 51.7 |
| 私は、自分の自慢できるところが、一つもありません。 | 男子 | 22.7 | 24.2 | 30.0 | 12.9 | 27.6 | 10.8 |
| | 女子 | 25.8 | 23.8 | 10.7 | 21.2 | 23.5 | 20.7 |

自己受容感覚の中で、男女の差が大きく見られるものは、「得意なこと、自慢できることがある」という項目である。2, 3, 4年生の男子が否定的な回答をしていることがわかる。中学年の男子は、遊びを通して友達関係を作り上げていく時期である。2年生以降では、運動能力の差が明らかとなっていくため、遊びの中での上下関係が生まれやすく、自信がもてなくなってしまう児童が多くなり、自慢できることがないとする児童が増えたことが予想される。「友達のいいなりになってしまう」という項目でも、2, 3年生男子にその傾向が強くと見られることから、そのことがわかる。

V 考察

以上の調査結果から、南小学校児童の自尊感情について、次のことが明らかとなった。

南小学校の包み込まれ感覚は、全体的に高いということが明らかとなった。しかし、5年生では、その感覚が低下することがわかった。これは、思春期の入り口に差し掛かり、子どもたちは家族とうまく関わるができなくなり、家族も子どもへの対応に戸惑うことが多くなっていくことが要因として考えられる。思春期への理解と対応について、子どもとともに保護者にも啓発をしていく必要がある。

また、全体の5%程度ではあるが、包み込まれ感覚を全く感じていない児童がいることも忘れてはならない。「包みこまれ感覚は自尊感情の基礎である」と池田ⁱⁱⁱは言っている。包みこまれ感覚を育むことが、子どもの自尊感情を育む基礎となることを考えると、家庭教育との連携が非常に重要である。通信や懇談などで、子どもの自尊感情について共に考える場をもつなど、保護者への啓発を行っていくことが大切である。

また、南小学校児童は、友達と良好な関係を築けていると感じてはいるものの、その関係に自信がもてない児童も多く、2年生以降、特に女子にその傾向が強いことがわかった。自分の思いを素直に表出できないことで、疑心暗鬼となり、自己肯定感が低下するだけでなく、他者肯定感も低下し、豊かな人間関係を作り上げていくことが難しくなってしまう。不登校や問題行動、いじめ、自殺など現在問題となっている現象の要因として、人間関係の未熟さがあげられている。小学校段階ではそれらの問題が顕在化することは少ないが、小学校2年生で既に「仲間の目を気にする」傾向が顕著に表れることを考えると、低学年の段階から、自分の思いをしっかりと表現すること、仲間の思いを受け入れていくことを大切に学級経営をしていく必要がある。低学年では、個の確立を中心に考えることが多いが、それと同時に温かい仲間関係の構築にもしっかりと取り組んでいく必要があることを感じた。

また、古荘純一が行ったQOL尺度調査ⁱⁱⁱⁱの結果と同じく、南小学校でも小学校4年生以降で、自尊感情が低下していくことも明らかとなった。特に、勤勉性感覚、自己受容感覚での低下が著しい。これは、4年生以降、学習内容が難しくなること、客観的に自己を見つめることができるようになることと関係していると考えられる。

子ども、保護者にとって、学業成績への関心は非常に高く、できないと感じること、思うような点数が取れないことで、自分に自信をなくすことも多くなっていく。子どもたちが苦手意識を抱かないようにするためには、まず教師がわかる・できる授業を作り上げていくことが大切である。同時に、教師は、学力とはテストの点数といった結果だけではなく、目標に向かってコツコツと頑張る過程も大切であることを、子どもだけではなく保護者にも伝える。教師や保護者が、子どもの努力の足跡を見つけ、認め励まし、努力をすることの素晴らしさを味わわせていくことが、子どもの自尊感情を育む上で大切であると考えられる。

また、「自分が好きである」という自己受容感覚は、中学年以降で低下していく傾向があることも明らかとなった。中学年以降は、自分を客観的に見るができるようになり、仲間と自分を比べ自分に自信がもてなくなってしまう児童が増える。子どもは、概して、自分ができないところに注目し

がちである。「できないところ」ではなく、「できるところ」や「自分のよさや成長」に着目させる働きかけを、教師が、保護者とともに行っていくことが大切であろう。

VI 今後の課題と研究の方向性

今回の調査結果、先行研究、先行実践をもとに子どもの好ましい自己概念を育成するための教師の構えや手だてをまとめ「学級経営チェックリスト」を作成した。このように作成した学級経営チェックリストにそって、子どもたちの自尊感情を育むため、学級担任として全教育活動を通して継続して取り組んでいる。児童アンケート・保護者アンケートの経年比較調査を行い、教師の意識との比較から、学級経営のあり方を見直し改善している。その詳細は、稿を改めて報告する予定である。

VII 参考・引用文献

-
- i 内閣府政策統括官（共生社会政策担当）編『世界の青年との比較からみた日本の青年 第7回世界青少年意識調査報告書』国立印刷局，2004年
 - ii 内閣府政策統括官（共生社会政策担当）「低年齢少年の生活と意識に関する調査」2007年
<http://www8.cao.go.jp/youth/kenkyu/teinenrei2/zenbun/index.html>（2011年8月27日閲覧）
 - iii 古荘純一『日本の子どもの自尊感情はなぜ低いのか』光文社新書，2009年
 - iv 池田寛『学力と自己概念』解放出版社，2000年，p.165
 - v 遠藤辰雄・井上祥治・蘭千壽『セルフ・エスティームの心理学』ナカニシヤ出版，1992年，p.218
 - vi 前掲v，p.203
 - vii 前掲v，p.178
 - viii 福岡県教育センター「自尊感情を高める少人数授業の展開」
<http://www.dduc.pref.fukuoka.jp/pubmag/pub>（2011年8月27日閲覧）
 - ix 前掲iv
 - x ベネッセ教育開発センター「モノグラフ小学生ナウ」2000年
<http://www.crn.or.jp/LIBRARY/DATA/M2/202/M22/M2202014.PDF>（2011年8月20日閲覧）
 - xi 澤田瑞成・小石寛文・佐々木正宏『こころの発達と教育臨床』培風館，2001年
 - xii 前掲iv，p.32
 - xiii 前掲iii

